



## 2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月30日

上場会社名 株式会社ハチバン 上場取引所 東  
 コード番号 9950 URL https://www.hachiban.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 後藤 克治  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員管理部長 (氏名) 舟山 忠彦 TEL 076-292-0888  
 四半期報告書提出予定日 2019年11月1日 配当支払開始予定日 2019年12月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年3月21日～2019年9月20日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	4,359	1.4	4,031	1.2	251	19.4	334	5.3	190	△5.9
2019年3月期第2四半期	4,298	7.5	3,984	7.6	210	△6.8	317	△1.8	202	△1.6

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 193百万円 (△5.5%) 2019年3月期第2四半期 204百万円 (△1.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	64.17	—
2019年3月期第2四半期	68.20	—

(注) 営業収益は売上高と営業収入の合計であります。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	5,531	4,330	78.3
2019年3月期	5,256	4,207	79.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 4,330百万円 2019年3月期 4,150百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	10.00	—	10.00	20.00
2020年3月期	—	10.00	—	—	—
2020年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想（2019年3月21日～2020年3月20日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	
通期	8,502	2.5	7,885	2.6	316	10.7	405	△1.8	243	15.5	82.04

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

2. 営業収益は売上高と営業収入の合計であります。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期 2 Q	3,068,111株	2019年3月期	3,068,111株
② 期末自己株式数	2020年3月期 2 Q	106,316株	2019年3月期	106,254株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期 2 Q	2,961,848株	2019年3月期 2 Q	2,961,892株

(注) 2019年3月期第2四半期の期末自己株式数および期中平均株式数、2019年3月期の期末自己株式数の算定に当たり控除する自己株式数には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）が所有する当社株式を含めております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(追加情報) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善などを背景に穏やかな景気の回復基調が続いているものの、米中貿易摩擦問題の長期化や英国のEU離脱問題などの不安定な国際的政治情勢により、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、原材料価格の高騰、働き方改革や人手不足などを背景とした人件費関連コストの上昇などに加えて、本年10月からの消費増税・軽減税率制度の施行により、中食市場の割安感に対して外食の割高感から外食機会の減少が予想され、経営環境は引き続き厳しい状況となっております。

このようななか当社グループは、「食の安全・安心」の向上はもとより、QSC（品質・サービス・清潔）、人材育成および生産性向上を今まで以上に徹底し、お客様の信頼と満足を得ることを第一に事業活動を展開してまいりました。

また、社会貢献への取り組みとして実施してきた、幼稚園と保育園対象の手洗い教室「食の安全・安心 8番子ども応援プロジェクト」を、店舗展開している北陸3県と岡山県において引き続き開催しております。

店舗数は、国内では新規出店1店舗（直営店）、閉店1店舗（加盟店）、海外では新規出店3店舗、閉店2店舗があり、合計277店舗（前連結会計年度末比1店舗増）となっております。その内訳は、国内店舗では、らーめん店舗121店舗、和食店舗13店舗、その他外食6店舗（合計140店舗）、海外店舗は137店舗であります。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は4,031百万円（前年同期比1.2%増）、営業収益（売上高と営業収入の合計）は4,359百万円（同1.4%増）、営業利益は251百万円（同19.4%増）、経常利益は334百万円（同5.3%増）となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、減損損失30百万円を特別損失として計上したこともあり190百万円（同5.9%減）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

#### ①外食事業

8番らーめんフランチャイズチェーンの国内展開を主とするらーめん部門では、改装・移転による店舗イメージの刷新を行う店舗を増やし、人手不足対策としてセルフオーダーシステムの導入を進めております。8番らーめん全店で、キャッシュレスへの対応として電子マネー・クレジット決済を導入して利便性の向上を図るとともに、ユニフォームを変更し接客サービスの向上に取り組み、また、野菜麻辣らーめんなど4種類の期間限定商品を販売して来店動機につなげております。

和食料理店を展開する和食部門では、料理人の技術と商品開発力の向上を図り、旬の素材を使った季節ごとの限定メニュー、立地によって異なる客層・利用シーンに合わせたメニュー、お客様に楽しんでいただける創作メニュー等の開発・提供に引き続き力を入れております。旅行会社や地元企業への営業活動も継続し、県外客・地元客の獲得など顧客の囲い込みにも努めております。

らーめん、和食業態以外に、道の駅・めぐみ白山のフードコート、北陸自動車道・徳光パーキングエリア内にある飲食・物販コーナーの運営の他に、ペッパーランチをイオンモール高岡に新規出店し3店舗の運営を行っております。

以上の結果、外食事業の当第2四半期連結累計期間の営業収益は3,693百万円（前年同期比1.0%増）、セグメント利益は479百万円（同10.1%増）となりました。

#### ②外販事業

外販事業では、長年愛されてきた「8番らーめん」ブランドを活用し、より付加価値のある商品の開発と提案を行っております。主力商品の生麺ブランド「八番麺工房」に加え、常温麺を使ったギフト用・お土産用商品を販売。さらに、生麺商品・冷凍生餃子を地元スーパーマーケット、国内各地の生活協同組合、量販店への卸販売やネット通販を通して、一般消費者の方にお届けしております。

商品の絞り込みや遠方エリアへの販売を見直し、物流費等の経費削減にも努めております。

以上の結果、外販事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は314百万円（前年同期比16.0%減）、セグメント利益は20百万円（前年同期はセグメント損失4百万円）となりました。

#### ③海外事業

8番らーめんフランチャイズチェーンの海外展開では、タイ国で2店舗を新規にオープンし130店舗、香港では2店舗の閉店があり6店舗、ベトナムは本年7月に1号店をオープンいたしました。

タイ国では、前期からのテレビCM放映を継続し、新規顧客の獲得、接客サービスや商品品質の向上に取り組んでおります。エキス（ラーメンスープ）・調味料の販売では、品質の維持、新たな商品の開発と生産体制の充実・増強に努め、海外および日本国内での販路拡大にも注力しております。

以上の結果、海外事業の当第2四半期連結累計期間の営業収益は、351百万円（前年同期比31.8%増）、セグメント利益は115百万円（同17.3%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

（資産）

当第2四半期連結会計期間末における資産の残高は、前連結会計年度末に比べ275百万円増加して5,531百万円（前連結会計年度末比5.2%増）となりました。これは主に、売掛金が154百万円、現金及び預金が90百万円増加したことによるものであります。

（負債）

当第2四半期連結会計期間末における負債の残高は、前連結会計年度末に比べ152百万円増加して1,201百万円（前連結会計年度末比14.5%増）となりました。これは主に、未払法人税等が78百万円、買掛金が70百万円増加したことによるものであります。

（純資産）

当第2四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末に比べ123百万円増加して4,330百万円（前連結会計年度末比2.9%増）となりました。これは主に、利益剰余金が160百万円、資本剰余金が24百万円増加したのに対し、連結子会社の持分比率の変更により、非支配株主持分が56百万円減少したことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想は、2019年4月26日に公表しました「2019年3月期 決算短信[日本基準]（連結）」に記載した数値から修正しておりません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月20日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,020,851	1,111,312
売掛金	442,316	596,699
商品及び製品	103,775	111,852
原材料及び貯蔵品	21,885	23,086
その他	118,045	157,214
流動資産合計	1,706,874	2,000,165
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,060,262	1,027,036
機械装置及び運搬具（純額）	333,195	302,556
工具、器具及び備品（純額）	258,684	222,765
土地	1,073,094	1,073,094
建設仮勘定	—	1,247
有形固定資産合計	2,725,237	2,626,701
無形固定資産	62,823	99,717
投資その他の資産		
投資有価証券	192,113	215,891
長期貸付金	36,290	33,408
関係会社出資金	59,920	59,920
差入保証金	352,562	363,824
保険積立金	67,325	67,710
繰延税金資産	49,466	60,591
その他	22,633	22,765
貸倒引当金	△18,853	△18,735
投資その他の資産合計	761,458	805,376
固定資産合計	3,549,520	3,531,796
資産合計	5,256,394	5,531,962

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2019年3月20日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月20日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	286,557	357,110
未払法人税等	38,543	116,645
賞与引当金	97,296	99,165
役員賞与引当金	15,000	—
未払費用	293,802	297,019
その他	83,647	92,058
流動負債合計	814,846	961,998
固定負債		
長期末払金	65,369	65,369
長期預り保証金	157,281	154,501
役員株式給付引当金	11,731	19,552
固定負債合計	234,382	239,423
負債合計	1,049,229	1,201,421
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,518,454	1,518,454
資本剰余金	1,067,006	1,091,350
利益剰余金	1,891,335	2,051,599
自己株式	△324,959	△325,153
株主資本合計	4,151,836	4,336,250
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,529	△8,994
為替換算調整勘定	690	3,282
その他の包括利益累計額合計	△839	△5,712
非支配株主持分	56,168	2
純資産合計	4,207,165	4,330,540
負債純資産合計	5,256,394	5,531,962

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)
売上高	3,984,665	4,031,188
売上原価	2,084,450	2,107,554
売上総利益	1,900,214	1,923,633
営業収入	314,334	327,990
営業総利益	2,214,548	2,251,624
販売費及び一般管理費		
運賃	151,132	139,501
役員報酬	55,838	53,557
給料及び手当	718,777	738,240
賞与引当金繰入額	85,871	88,753
役員株式給付引当金繰入額	3,910	7,821
退職給付費用	9,281	16,954
地代家賃	181,424	190,842
水道光熱費	93,580	94,398
減価償却費	71,048	77,736
その他	633,386	592,662
販売費及び一般管理費合計	2,004,252	2,000,468
営業利益	210,296	251,156
営業外収益		
受取利息	714	626
受取配当金	92,234	67,425
受取地代家賃	24,410	24,414
為替差益	960	—
持分法による投資利益	1,465	9,768
その他	12,105	8,010
営業外収益合計	131,890	110,245
営業外費用		
支払利息	102	89
貸貸費用	24,047	24,088
為替差損	—	670
その他	52	1,847
営業外費用合計	24,202	26,696
経常利益	317,984	334,706
特別損失		
固定資産除却損	141	258
減損損失	—	30,089
特別損失合計	141	30,347
税金等調整前四半期純利益	317,843	304,358
法人税、住民税及び事業税	73,500	119,000
法人税等調整額	40,280	△11,125
法人税等合計	113,780	107,874
四半期純利益	204,062	196,483
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,056	6,411
親会社株主に帰属する四半期純利益	202,005	190,072

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月21日 至 2018年9月20日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月21日 至 2019年9月20日)
四半期純利益	204,062	196,483
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,008	△7,465
為替換算調整勘定	△3,381	2,721
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,407	1,381
その他の包括利益合計	218	△3,363
四半期包括利益	204,281	193,120
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	203,949	185,199
非支配株主に係る四半期包括利益	332	7,921

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。なお、前連結会計年度の連結貸借対照表は当該会計基準の改正等を遡って適用した後の数値となっております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間（自 2018年3月21日 至 2018年9月20日）

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	外販事業	海外事業	合計		
営業収益 (注) 1						
外部顧客への営業収益	3,658,050	374,105	266,843	4,298,999	—	4,298,999
セグメント間の内部営業収益又は振替高	237,738	6,458	32,698	276,895	△276,895	—
計	3,895,788	380,563	299,542	4,575,895	△276,895	4,298,999
セグメント利益又は損失 (△)	435,241	△4,650	98,448	529,038	△211,054	317,984

(注) 1. 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△211,054千円には、各セグメント間取引消去837千円、各セグメントに配分していない全社費用△211,892千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の経営管理に係る部門の費用であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## II 当第2四半期連結累計期間（自 2019年3月21日 至 2019年9月20日）

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	外食事業	外販事業	海外事業	合計		
営業収益 (注) 1						
外部顧客への営業収益	3,693,239	314,295	351,643	4,359,179	—	4,359,179
セグメント間の内部営業収益又は振替高	166,853	6,302	45,466	218,622	△218,622	—
計	3,860,093	320,597	397,110	4,577,801	△218,622	4,359,179
セグメント利益	479,040	20,718	115,462	615,220	△280,514	334,706

(注) 1. 営業収益は、売上高と営業収入の合計であります。

2. セグメント利益の調整額△280,514千円には、各セグメント間取引消去767千円、各セグメントに配分していない全社費用△281,282千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の経営管理に係る部門の費用であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(固定資産に係る重要な減損損失)

「外食事業」セグメントにおいて、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである1店舗について、帳簿価額を回収可能価額まで減損し、減損損失30,089千円を特別損失に計上しました。